

平成21年6月16日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18310166
 研究課題名（和文）日本型ケア政策の展開とケアリング関係の再編に関するジェンダー・市場分析
 研究課題名（英文）Development of the Japanese Care System for the Elderly and Restructuring of Caring Relationship：From the Perspective of Gender and Market
 研究代表者
 笹谷 春美（SASATANI HARUMI）
 北海道教育大学・教育学部・教授
 研究者番号：00113564

研究成果の概要：

本研究は、これまで研究対象として見過ごされてきた、ケアシステムの最小単位であり最前線である「ケアする人とケアされる人のケアリング関係」に着目し、ケアリング関係が大切にされるケアシステムこそ、これからの高齢者ケアの制度設計や再編に欠かせないことを、理論的、実証的に明らかにした。その中で、サービスの受給における当事者主権や介護者支援など、現段階では真正面から取り上げられていない新しい論点と施策の必要性および必然性を発見した。高齢者ケアをめぐる問題は北欧などの福祉先進国においても共通するグローバルなイシューを内包するため、今後フィンランドの研究者との共同研究を展開することとなった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2007年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
2008年度	1,800,000	540,000	2,340,000
年度			
年度			
総計	7,100,000	2,130,000	9,230,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー

キーワード：ジェンダー

1. 研究開始当初の背景

ケアする人とケアされる人のケアリング関係は、高齢者のケアシステムの基本単位であり、システムが維持されるあるいはシステムを支える最前線である。しかしながらケアリング関係はシステムの中ではミクロな領域であり、なおかつ無償あるいは低賃金の女性によるジェンダー化された領域であることからマクロな制度設計において見逃されがちであった。しかし、介護保険の導入は、

ケアマネやホームヘルパーの介入により、ケアリング関係の社会的認知を高めるにいたっている。その中でケアリング現場が抱える多様で新しい課題も浮かびあがってきた。また介護保険の理念と現実のギャップにサービス提供者や利用者の不満もたかまっていた。また、制度設計自体の問題やその実施過程の問題点も浮かび上がってきた。

ケアする人とケアされる人の双方が満足できるケアリング関係を保証するシステム

はいかなるものか。そのためには、ケアリング関係の当事者の声や、ケアリング現場の実態を把握し、それをマクロなレベルに繋げる新しい視角・概念・理論が求められていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、上記の背景認識の下、ミクロなケアリング関係の把握とマクロな制度設計・運営をつなぐための理論的・実践的な課題に応えようとするものである。そのために以下のテーマを設定した。

(1) 日本の高齢者ケア政策の展開を「ケアリング・ジェンダー・市場メカニズム」の3つの視角から複合的にとらえ返し、その日本の特徴と問題点を明らかにすること。つまり、日本の高齢者ケア政策はどのような論理をベースにして構築され、それが今日の介護保険制度につながっているのか。介護保険制度はそれ以前の日本型介護のパラダイム転換とされているが、本当にそうなのか、などを問い、問題の遺制と新たに加味された側面を明らかにすることである。

(2) これらの政策展開がケアリング現場にもたらす影響を具体的に析出することである。とりわけ、介護保険制度とその改正に伴うケアリング関係の再編成の実態を明らかにすることである。その際に、介護保険制度に係る諸アクターへのインタビューによる事例的調査やアンケート調査を行う。

(3) また、日本が直面している問題は、高齢化が進んでいる国にとって共通なグローバルな課題である。国際的イシューは何か、どのような解決方法が求められているのか、我が国が学ぶべき教訓は何か。国際比較研究も必要である。

以上から、今日の介護保険制度とその改正に伴う制度の枠内外におけるケアリング関係の再編過程の実態の批判検討を中心として、来るべき超高齢社会における、よりよいケアリング関係の構築のための提言をおこなうことである。

3. 研究の方法

(1) 日本の高齢者ケア政策の展開を、ケアリング・ジェンダー・市場の視点から分析を行うため、政策資料や先行研究のレビューを行う。

(2) 介護保険制度の改正がケアリング関係に及ぼす影響を明らかにするために実証的研究を行う。

①介護保険サービスを担うさまざまなアクターへの調査：東京圏および北海道（札幌）を中心に地域包括センターのスタッフや自

治体の担当者、サービス提供事業者にたいする聞き取り調査を行い、制度改正への対応、特に利用者との関係について情報収集をおこなった（2006年）。

②財政破綻、地域福祉サービスの削減という地域社会の衰退における介護保険制度の役割を明らかにするため、夕張市をフィールドとする実態調査を行った（2007年9月）。

③国内だけではなく海外（フィンランド）との比較研究も行い、グローバルな課題と解決策を探る。比較対象国を北欧のフィンランドとし、2008年1月にヘルシンキ、バンター地区の調査を行った。同時にフィンランドの研究者との交流あるいは共同研究の可能性をさぐった。

4. 研究成果

(1) 日本の高齢者ケア政策をケアリングという視点で検討することにより、日本においていまだ政策的課題としてあいまいなまま放置されている「ケアする人のケア」「ケアする人の権利保障」のための政策の構築の必然性を明らかにした。いわゆる「(家族)介護者支援」の必要性の根拠を示した。

(2) 介護保険制度に関わる諸アクターの聞き取り調査を行なうことにより、導入7年目の介護保険制度の評価を多角的に分析することができた。制度やその改正—特に2005年改正の導入プロセスにおける各アクターの抱える役割遂行とその矛盾を明らかにできた。

①地域包括支援センタースタッフやケアマネジャーの聞き取りでは、制度の改正や介護認定変更を利用者に説明・納得する際の葛藤も語られた。

②利用者および家族では改正に伴う影響についての多様な受容態度が見られた。実際のサービス提供者のヘルパーへの評価も多様であった。

(3) 地域の財政破綻にあえぐ夕張市におけるフィールド調査では、自治体の福祉サービスが削減される中で、全国一律の介護保険制度は「認定—サービス提供」は地域の状況如何に関わらず機能することから、利用者にとっては在宅ケア、施設ケアを通して生活と心身の維持のミニマムなセーフティネットの役割を果たしていることが明らかとなった。

(4) しかし、擬似市場のメカニズムは、介護サービス提供事業所の経営や介護労働者の処遇を圧迫し、利用者の自己負担が増加する中、必要なサービスが提供されずケアリング現場にしわ寄せをもたらす側面も多くの証言から明らかにされた。

(5) 高齢者の生活のQOLを維持するためには、介護保険サービス、地域ケア及び福祉、家族を犠牲としないインフォーマルケアの協働の更なる議論を積み重ねる必要がある。

(6) 以上の研究のまとめとして、この間2冊の報告書を発刊した。その内容はホームページからみることができる。

(7) また、国際比較研究の対象国としてフィンランドを選出し、研修をおこなった。これらの調査によって、北欧福祉国家においても、新自由主義およびNPMの影響が浸透し、サービスの削減と再編成が行われ、日本と共通する傾向と問題が議論されていることが判明した。これらの問題解明のためにフィンランドの研究者グループと将来的な共同研究の道を探る必要があると考えている。早速、その具体化として2009年度には、タンペレ大学の Anttonen 教授を中心とする研究チームと二カ国間セミナーを日本で開催することが決定している（学振の採択決定）。また、最終年度の2009年3月には、ヘルシンキ大学のケアワーク・ケアワーカー研究の第一人者の Sirpa Wrede 先生をシンポジストに招聘し、本科研費の事業として国際シンポジウムを開催した。その内容はホームページに掲載している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 11 件)

① 山井理恵、ケアマネジメントにおけるサービス供給機関に関わる情報収集と吟味、「ケアマネジメント」Vol.7(1)、58-67、2008、査読有り

② 山口麻衣、フォーマル・ケアとインフォーマル・ケア組み合わせに対する地域高齢住民の選好関連要因、「社会福祉学」、49-2、123-134、2008、査読有り

③ 山口麻衣、ライフコースの視点からの高齢期のケアミックス、「宇都宮短大研究紀要」6巻、75-86、2008、査読無し

④ 斎藤暁子、家族介護へのサービス介入の可能性、「社会政策研究」7号、23-52、2007、査読有り

⑤ 山口麻衣、フォーマル・ケアとインフォーマル・ケア組み合わせ選考と地域特性との関連 「日本の地域福祉」20号、87-99、2007、査読有り

⑥ 笹谷春美、高齢者ケア政策の展開と家族介護(者)施策、ケアリング研究

会研究報告書I「高齢者ケア政策の展開とケアリング関係の変容」、2-22、2007、査読無し

⑦ 永田志津子、家族介護の視点から見た訪問介護、ケアリング研究会研究報告書I「高齢者ケア政策の展開とケアリング関係の変容」68-85、2007、査読無し

⑧ 森川美絵、ケア供給システム転換とケアワーク、ケアリング研究会研究報告書I「高齢者ケア政策の展開とケアリング関係の変容」86-103、2007、査読無し

⑨ 山口麻衣、高齢者ケアにおけるケアミックス、ケアリング研究会研究報告書I「高齢者ケア政策の展開とケアリング関係の変容」104-120、2007、査読無し

⑩ 斎藤暁子、介護保険制度下における家族介護の現状、ケアリング研究会研究報告書I「高齢者ケア政策の展開とケアリング関係の変容」23-52、2007、査読無し

⑪ 山井理恵、介護保険制度再編後のケアマネジメント、ケアリング研究会研究報告書I「高齢者ケア政策の展開とケアリング関係の変容」53-63、2007、査読無し

〔学会発表〕(計10件)

① 笹谷春美、ケアワーカー・要介護者・家族介護者—介護保険制度への包摂・排除のメカニズム—、ケアリング研究会シンポジウム、2009年3月14日、お茶の水女子大学

② 永田志津子、訪問介護における生活援助の再評価に関する1考察、日本介護福祉学会、2008年11月2日、仙台白百合女子大学

③ 笹谷春美、日本の介護保険制度下のケアリングの危機と教訓、梨花女子大学アジア女性センター国際シンポジウム、2008年10月30日、梨花女子大学・韓国

④ 笹谷春美、フィンランドにおける介護者の確保育成策、日本社会政策学会 2008年10月11日、岩手大学

⑤ 森川美絵、アメリカにおける介護者の確保養成策、日本社会政策学会、2008年10月11日、岩手大学

⑥ 笹谷春美、日本型介護政策の展開と家族介護(者)支援策、日本学術会議「少子高齢社会」分科会シンポジウム、2007年12月22日、御茶の水女子大学

⑦ Mie Morikawa, Preventive Care or Preventing Needs?: Re-balancing Long-Term Care between the Government and Service

Users in Japan, The 4th Annual East Asian Social Policy research network (EASP) International Conference, 2007 Oct 21、東京大学

⑧ Mai Yamaguchi, Care Mix for the elderly in Japan: Too much Expectation of the Voluntary Sector, The 4th Annual East Asian Social Policy research network (EASP) International Conference, 2007 Oct 21、東京大学

⑨ 永田志津子、介護保険制度継続利用者に見る介護予防訪問介護の課題、日本介護福祉学会大会、2007年10月6日、浦和大学

⑩ 笹谷春美、高齢者介護政策における「家族介護」(者)の認知過程と支援策の変容、日本家族社会学会、2007年9月8日、札幌学院大学

[図書] (計 5 件)

① 笹谷春美、医学書院「ニーズ中心の福祉社会へー当事者主権の次世代福祉社会へー」2008、288 (40-68)

② 斎藤暁子、医学書院「ニーズ中心の福祉社会へー当事者主権の次世代福祉社会へー」2008、288 (70-90)

③ 笹谷春美、岩波書店「家族のケア・家族へのケア」(講座「ケアの思想と実践」4) 2008、235 (55-74)

④ 森川美絵、岩波書店「家族のケア・家族へのケア」(講座「ケアの思想と実践」4) 2008、235 (201-258)

⑤ 斎藤暁子、法政大学出版会「ケアとサポートの社会学」2007、183-214

[その他]

<http://homepage3.nifty.com/caring/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

笹谷 春美 (SASATANI HARUMI)
北海道教育大学・教育学部・教授
研究者番号：00113564

(2) 研究分担者

永田 志津子 (NAGATA SIZUKO)
札幌国際大学・短期大学部・教授
研究者番号：60198330
山井 理恵 (YAMANOI RIE)
明星大学・人文学部・准教授
研究者番号：40320824

森川 美絵 (MORIKAWA MIE)

国立保健医療科学院・福祉サービス部・研究員

研究者番号：40325999

山口 麻衣 (YAMAGUTI MAI)

ルーテル学院大学・総合人間学部・講師

研究者番号：30425342

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者

斎藤 暁子 (SAITOU AKIKO)

恩寵財団母子愛育会リサーチレジデント